

都市再生整備計画 フォローアップ報告書
豊川一宮地区

令和元年10月

愛知県豊川市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	地区内人口	指数	0.9	1.0	1.0	確定 見込み ●	○	あり なし	1.0	H30年4月	○	-	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる <p>一宮大木土地区画整理事業が進捗したほか、関連する道路事業や公共下水道事業、公園事業等による都市基盤施設の整備が進み、生活環境の改善が図られたため、人口の維持に繋がったものと考えられる。</p>
指標2	安全・安心分野に関する市民満足度の向上	ポイント	+3.2	+3.8	+3.8	確定 見込み ●	○	あり なし	+3.2	R元年10月	△	<p>本都市再生整備計画事業地区を含む旧一宮町南部は一級河川豊川の氾濫がある地区であり、近年の大雨による浸水被害や鬼怒川、千曲川の氾濫等の影響で、調査の項目「排水対策」の満足度が大きく低下しているため。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる <p>一宮大木土地区画整理事業の進展により、それまで老朽化した家屋が立ち並び、地区内の道路が狭く緊急車両の走行が困難であった状況が改善され、新しい家屋が立ち並び、一定の幅員がある道路が整備された。これにより安全・安心分野に関する市民意識調査の項目のうち、「地震などに対する防災対策」「救急体制」は満足度が向上している。</p> <p>一方、本都市再生整備計画事業地区を含む旧一宮町南部は一級河川豊川の氾濫がある地区であり、近年の大雨による浸水被害や鬼怒川、千曲川の氾濫等の影響で、調査の項目「排水対策」は満足度が大きく低下している。上記により、確定値は従前値と同ポイント数ではあったものの、「排水対策」以外の項目による満足度の総計は従前値と比べて上昇していることから、一定の効果はあったと考えられる。</p>	
指標3	建設・整備分野に関する市民満足度の向上	ポイント	+0.6	+1.1	+0.6	確定 見込み ●	△	あり なし ●	+0.4	R元年10月	△	-	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる <p>一宮大木土地区画整理事業の進展や一宮幸公園等の整備により、建設・整備分野に関する市民意識調査の項目のうち「住環境の整備」「緑・自然の豊かさ」「公園の状況」についての満足度は向上している。</p> <p>一方、従前値の算定基準年度である平成23年度までは有人駅だったJR三河一宮駅が、平成24年4月より無人化したことや、世間ではICカードが流通している現在もおICカードによる乗車ができないこともあり、地域の拠点駅の利便性が下がっている状況である。このことも影響し、「公共交通の利便性」の満足度が大幅に低下している。</p> <p>上記により、確定値は従前値を下回る結果となったものの、満足度が向上した項目もあるため、一定の成果はあったものと考えられる。</p>

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1	人身事故発生件数	件	212.0	/	166	確定 ●	/	/	H 年 月	/	-	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	一宮大木土地区画整理事業や道路事業による道路整備や、道路照明・防犯灯の設置によって、安全性が向上し、人身事故発生件数の減少に繋がったものと考えられる。
その他の数値指標2	一宮大木土地区画整理事業地内の増加戸数	件	0	/	93	確定 ●	/	/	H 年 月	/	-	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	一宮大木土地区画整理事業が進捗したほか、関連する道路事業や公共下水道事業、公園事業等による都市基盤施設の整備が進み、生活環境の改善が図られたため、保留地の売却が進み、住宅戸数の増加に繋がったものと考えられる。
その他の数値指標3	豊川大木地区工業用地の企業進出	件	0	/	6	確定 ●	/	/	H 年 月	/	-	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	道路事業の実施により工業団地北部を通る主要地方道豊川新城線へのアクセスの改善を図ることで、企業の当該地区への進出意欲の向上に貢献し、全区画売売につながったものと考えられる。
その他の数値指標4	JR飯田線三河一宮駅の年間乗降客数	人	266,599	/	277,449	確定 ●	/	/	H 年 月	/	-	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	一宮大木土地区画整理事業や道路事業により、駅周辺の人口の増加や駅周辺の道路の利便性が向上し、鉄道利用者の増加に繋がったものと考えられる。

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した 今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために 行う方策	①住民による維持管理の促進	・アダプトプログラム登録団体への支援の充実	・153団体がアダプトプログラムへ登録し、清掃活動などのまちの維持管理活動をしている。この活動を市民が自主的に行えるよう、アダプトプログラムへの登録支援を行っている。	整備された公園や道路等地区内の施設の適切な維持管理が、アダプトプログラムに登録した団体だけでなく、地元町内会を中心とした地域住民全体で行われるよう支援を図り、愛着を醸成する。
	②防災活動の実施の促進	・町内会(自主防災組織)に対する防災関連の支援	・町内会と小学校が合同で実施する防災訓練へ補助金を交付し、当日は取材をして防災訓練の様子や成果を公表した。	町内会が積極的に活動できるよう、整備された公園や地域防災施設を活用した防災訓練等の実施を支援し、地域の防災力を強化を継続する。
	③防犯活動の実施支援	・ボランティア・市民団体への支援	・若者が各ボランティア・市民団体に参加できるよう、市が仲介することで、若者のボランティア活動への参加を促し、防犯活動の実施を支援した。	ボランティア・市民団体が実施している防犯活動の実施を支援し、若者だけでなく地域住民全体で防犯活動に参加できるようにすることで、地域の治安の維持を図る。
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	①コミュニティバスの利便性向上	・コミュニティバスの運行形態の検討	・コミュニティバスのバス停新設やダイヤの見直しを行い、コミュニティバスの運行形態を検討した。	計画地区内では高齢者が今後も増加していくこと等を踏まえ、移動に対する地域のニーズを踏まえながら、地域住民の移動手段の一つとなるコミュニティバスの現状の運行について引き続き検証を行い、改善を図る。
	②地域住民の交流の促進	・地域活動の支援	・地域住民主体で実施される行事の取材を通し、その様子を公表することで地域コミュニティの促進を図った。	土地区画整理事業の実施によって、新たな住民が転入している。こうした住民を含めた幅広い世代での交流を促進するため、既存の行事や新たな行事を創出するとともに、今後も地域住民主体で実施される行事のバックアップ等、地域コミュニティの強化を図る。
	③都市基盤施設整備の推進	・都市基盤施設整備事業の実施	・都市基盤施設整備事業を進めるとともに、整備計画期間内に完了予定であったが、未完了である事業についても引き続き整備を進めている。	新たな住民が転入することにより、地元要望に変化が生じることが考えられるため、住民ニーズを的確に把握し、都市基盤施設の整備を推進するとともに、未完了である事業について引き続き整備を進め、住民満足度の向上を図る。

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項
①防災活動の実施の促進	・町内会(自主防災組織)に対する防災関連の支援	常時	・河川の氾濫を想定した避難訓練等の実施を支援すること